
日本人間関係学会ニュース 第97号 発行日:2019.9.21

News No.97 Japan Association of Human Relations September 21, 2019

発行：日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室
事務局：〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂 1550 番地 埼玉学園大学人間学部心理学科 杉山雅宏研究室
FAX: 048-299-1111 E-mail:jahrjimukyoku@gmail.com

[内容] ☆理事長挨拶 ☆北から南から ☆人間関係学探訪③ ☆順子の映画鑑賞記① ☆会員の活動紹介 ☆事務局だより

《理事長挨拶》

学会員の一人ひとりの自己実現に向けて

理事長 山本克司
(修文大学教授)



学会員の皆さま、いつも学会活動にご高配を賜り、衷心よりお礼申し上げます。今、学会は様々な困難に直面しています。私は、理事長として、直面している課題解決に真摯に向かい合う所存です。

第一は、学会活動の活性化です。日本人間関係学会は、幅広く学際的な学会です。学問領域を超え、多くの研究者と実践者が交流を深めることができる素晴らしい学会です。一方で、「人間関係」の研究という漠然としたテーマであるために、研究・実践活動が曖昧になることが危惧されます。そこで、人間関係の研究を深めるため、他学会との連携を強めようと考えています。具体的には、他の学会と様々な共同研究会を行うことにより人的交流を活発化することです。現在、会員の皆さまのご意見を拝聴しながら、いくつかの学会と人的交流を検討しています。

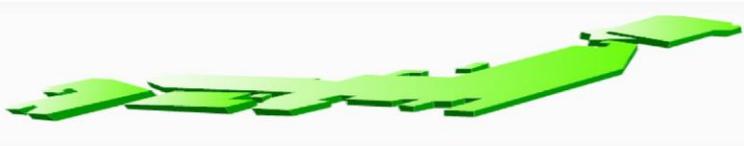
第二は、若手研究者の育成です。現在、本学会の研究大会は、参加人数が少なく、学会のアカデミズムの維持が難しい状況にあります。一方、研究発表と質疑応答の時間は、他の学会に較べて長くなっています。本学会は、この長所を積極的に活用し、若手研究者が積極的に研究発表を行い、十分に質疑応答ができ、多くの示唆を得られるような研究大会にしたいと考えています。また、論文作成講座、調査研究講座等の教育講座を充実させ、若手参加者の将来につながる研究大会にしたいと考えています。

第三は、学会情報の積極的な発信です。学会の目的は、学会員の学会活動を通して自己実現を支援することにあります。そのためには、会員の活動を社会資源にあまねく知ってもらう必要があります。具体的には、科研の共同研究者募集、論文の共同執筆者募集、論文作成についての意見交換、学会員の講演会講師派遣、行政機関委員会や審議会の委員派遣・委員推薦、学校関係の委員派遣・推薦、著書の執筆者依頼・紹介、マスコミのコメンテーター推薦などです。そのために、現在、会員のデータベースを構築しています。情報発信を希望する会員のデータを登録し、ホームページで公開することにより、より会員の活動範囲を広げようと考えています。

第四は、地区会の充実です。現在、本学会にはいくつかの地区会が活動しています。しかし、一方で新しい会員が参加しにくいという課題もあります。それぞれの地区会が積極的に情報を発信し、新しい会員が参加しやすい環境を整備していただきたいと思います。

第五は、コンプライアンスの徹底です。会員一人ひとりの個人の尊厳を尊重した学会づくりを進めたいと考えています。パワハラやアカハラは決して許されるものではありません。本学会は、社会的責任において、このような行為に対して厳しい態度で臨みたいと考えています。皆さまのご協力を心よりお願い申し上げます。

新しい時代に一緒に学会づくりができることを楽しみにしています。



あるがままに

高知県 竹村泰央

それなりに歳を重ねてくると、思い通りにならない人生の現実に思い知らされる。何を言っても話が通じなくなった老いた親、従順だと思い込んでいた妻、あちこちガタつき始めた体と頭。

どれもが受容せざるを得ない事態ではあるが、中でも眩暈がするほどのこの暑さは地球レベルの大問題である。ここでは大上段な温暖化対策等ではなく、我々一般ピープルができる、考え方や行動を変革することで環境の変化を受け入れていく術を考えてみたい。

人間は適応力の高い生物である。なにしろ宇宙空間でも生存できる技術すら開発できる。複雑で濃密な人間関係を解決する心理学的テクニックや快適な空調や涼やかな食べ物の技術開発など朝飯前である。

しかしこのような環境に逆行して適応していく姿勢ばかりでは、生身の身体を持つ我々には、却って逆効果となる危険性もあるのではないか。



そうではなく、人間の持つ能力を上手く使った対策も併せて考えていく方が理にかなっている。例えば酷暑の夏は、汗を流すことや熱くて辛い食べ物を摂ることで身体を冷やすことができる。人間の身体には恒常性という能力が備えられているのである。

求められるべきは、環境の変化を諦めて受容することではなく、あるがままに受け入れられる自身の持つ能力を磨く賢さなのである。

夏の思い出

埼玉県 大石幸二

改元後、初めての夏を迎えた。全国各地から、夏祭りや花火大会の知らせが届いている。私は両親が東京出身のため、故郷を持たない。が、仕事柄地方都市に出かける機会が多い。なかでも、通い始めてかれこれ10年程になる青森県と山口県への出張を楽しみにしている。何が楽しみと云えば、温かみのある「ことば」である。日ごろほとんど耳にすることのない抑揚や言い回しなどに、毎度毎度私の「こころ」は癒やされている。そして、「まごころ」が「ことば」によく表れているな、としみじみ感じる。だから、青森県から帰る新幹線や、山口県から戻る飛行機では、ほっこりした気持ちを携えて家路を辿るのである。



残忍な人の行為に心を痛めることが多い今日この頃だが、その一方で私たちの心根には誰かに「まごころ」を尽くそうとする性質もある。人と人との関わり次第で、私たちの性質はどちらにも傾いてしまう。そういえば、生理心理学者であった私の恩師は、酔うと良く言っていた。「不義理なマネだけはするな」と。

何気ない日常、普通の日、特別な日

愛知県 勝田みな

東京オリンピック開会式は、2020年7月24日。

皆さんにとって、この7月24日は、365日の中でどのような日でしょうか。大半の人は、「普通の日」と答えますよね。実は私にとって、東京オリンピック開会式の、この7月24日は誕生日なのです。東京オリンピック開会式が、まさか誕生日と重なるとは、間違いなく『特別な日』になりました。（なんだか、世界中の人からお祝いされるわと、楽しい勘違いもすでにしています）

ある人のきょうは、何気ない日常の繰り返しである「普通の日」かもしれません。ですが、たまたま隣に座ったその人にとっては『特別な日』かもしれませんね。

世の中のどこかで誰かにとっては、きょうが『特別な日』であると思えば、何気ない日常に感謝することができるのではないのでしょうか。『特別な日』を過ごしている人へ思いを巡らせ、何気ない日常を心豊かに楽しく生きるって素晴らしいと感じます。

さあ！きょうは、明るく楽しく過ごしましょうよ。



Congratulations



濱島淑恵会員が第25回社会政策学会学会賞（奨励賞）を受賞されました。これは学会ニュース第94号（2018.11.4発行）で紹介した濱島会員の書籍『**家族介護者の生活保障－実態分析と政策的アプローチ**』（旬報社、2018年刊）』が評価されたものです。

本書は、学会ニュース紹介後も、『週刊金曜日』誌や『社会保障研究』誌にも取り上げられる等、注目され続けていました。結果、この度の受賞と相成り、当学会としてもお祝い申し上げます。

ちなみに、社会政策学会は現在の学会の姿となって設立されたのは戦後の1950年で、その名称と財産を継承した戦前の社会政策学会が正式に発足したのは1897年と由緒のある学会です。会員数1,163名（2018年3月31日現在）とその規模は大きい学会といえます。

ここに、お祝いのメッセージを贈るとともに受賞作品となったご著書の内容を、出版社である旬報社HPより抜粋紹介いたします。

【内 容】

- 仕事との両立の困難さ、介護疲れや生活苦による虐待や殺人・心中……。
- 家族介護が社会問題になって久しいが、老親や配偶者、子どもなどをケアする人たちのおかれた現実には依然厳しい。
- 実態調査と政策分析をもとに、家族介護者の生活保障に向けた方策を示す。
- 先行研究では手薄だった介護問題と労働問題との関連についても検討。



人間関係学探訪シリーズ⑬

日本人間関係学会は教育・医療・心理・福祉など研究者だけの集まりでなく、人間関係に関心のある企業人、学生、市民など多種多様な会員が集まっています。そうした会員のお一人おひとりにスポットを当てて、Q&A形式で、その実践やお人柄、人間関係への想いを語っていただき、人間関係学の探究に何らかの示唆を得ることが本シリーズの意図・ねらいです。シリーズ第13回では、スクールカウンセラーとして、また本学会においては理事としてご活躍中の田中典子先生に語っていただきました。

田中 典子氏 公認心理師

都内公立中学校スクールカウンセラー（3校）・カウンセリング・スペースさくら 主宰

出身地新潟県の臨時小学校教員を経て結婚後は全国8カ所を転居。大阪在住時、阪神大震災に遭遇し、2012 ポストン・ヴァンデ・コークトラウマ研究所にて研修、仕事で関心の深い発達では、2013 ドイツ・ウィンスハイム市特別支援学校を見学・交流。キャリア・デザイン学修士（法政大学院） 趣味の料理では、自宅教室の他、杉並区の中学生に調理実習授業 10 年目。



谷川（広報委員会）：こんにちは、田中典子先生。今日とはよろしくお願ひいたします。

田中：こんにちは、広報有難うございます。

谷川：田中先生と初めてお会いしたのは、熊本、第23回大会の九州ルーテル学院大学です。iPadで沢山写真を撮って提供していただきました。

田中：学会ニュースや当時開始したばかりの公式Facebookページ用に、少しでもお役に立てたようでした（笑）

谷川：はい（笑）。当時、リアルタイムで学会開催状況をお届けできたのは先生のご尽力によるところが大きいです。最近でも私が公務で参加できなかった仙台は東北医科薬科大学での第26回大会、これも本当に助けていただきました。送っていただいた写真データはナイスショットばか

りで、おかげさまで「人間にとって大事なことは何か」という記念動画も作成することができました。公式Facebookページ上でアップしましたところ結構、反響ありまして、田中先生のおかげです。さて、それでは先生のご経歴から教えてください。

田中：新潟県出身で、東京に進学後主人と直ぐに知り合い、卒業後の結婚となったので1年間新潟に戻り臨時教員と結婚準備。新婚の札幌を皮切りに13年間は、転勤転勤でしたので、職歴は積めず、転居地の大阪大学や静岡大学などで心理学等を学び続け、心理資格等を取得してきました。バブル期は子育て中で、キラキラした独身同級生を尻目に海外もブランド物もパス。ただ学びには主人が投資？をしてくれたので、関心の高かった高齢

(臨床老年行動学)と心理について学べ、大学院では不登校生のキャリア支援を研究。昨年は初めての心理国家資格である公認心理師も取得しました。

谷川：ご結婚後、転勤を繰り返しながら、子育て、また大学・大学院で学ばれたのですね。そして、国家資格ご取得おめでとうございます。

田中：ありがとうございます。

谷川：では、つぎにご趣味についてうかがいます。いかがですか。

田中：生家も結婚後も来客が多い家庭だったため、必要に迫られて料理をし、おもてなしを工夫しているうちに趣味になりました。フラワーアレンジメント、パン、料理・茶道・着付けと習っては資格取得、教える教室も開いてきました。趣味が実益にもなっている幸運です。

谷川：とことん追求され、実に多くのレパトリーをお持ちと分かり、素晴らしいです。ところで、学会には入会してどのくらいでしょうか。

田中：2004年の第12回学会大会に東京から参加し、樟蔭東女子短期大学(東大阪市)会場にて初めての発表をしていますから、15年くらいかと思います。

谷川：およそ15年前、ご入会のきっかけは何ですか。

田中：中級を持っていた日本教育カウンセラー協会の上級資格の取得条件に「学会発表」とあり、入会先を探していた時にたまたま研修会場においてあった「学会入会」案内が日本人間関係学会だったことです。だから詳しく知らないで入会した、というのが正直なところです。

谷川：当時の理事会では、そうした宣伝活動、案内活動も積極的になされていたことが確認できます。入会していかがでしたか。

田中：学会は敷居の高い学者さんの集まり、といったイメージがあり萎縮気分だったのですが、先生方がフラットで「立場」ではなく「人」として関わって下さるところが最初の良かった点です。最近、学術団体としての学会に所属している研究者としての「信頼」資源として、また仕事柄「人間関係」という学会の名称が気に入っています。実際、名刺に入れていて差し上げた方の反応「どのような学会ですか？」も必ず言われます。

谷川：この学会は立場で関わるというよりも一人の人として大切にされる、初めて大会に参加した時、私もそう感じました。最も印象に残った大会と言えばどの大会ですか？

田中：東京理科大学金町校舎会場での大会です。

谷川：5年前、第21回大会ですね。

田中：ゲストの数学者、秋山仁先生の講演を鮮明に覚えています。「銀河鉄道の夜」を書いた宮沢賢治が故郷・花巻の農学校で教鞭をとっていた時の「雷と窒素」についての授業から、「教える」意義と行為についてお話しされました。研究発表やラウンドテーブルなど研究や実践の知見に留まらず、多彩なゲストの語りも大会の魅力の一つと実感しました。

谷川：今のお仕事についてうかがいますが、どうですか。やりがいですか。

田中：スクールカウンセラーになって15年ほどになります。最初は私立の高校から公立中学、小学校、そして今は公立中学に3校に勤めています。対応の案件は不登校が多く、続いて発達系の不適應、家庭環境など心理と福祉が交わる案件も増えており、即時対応の緊急案件もあります。やり甲斐は、やはり生徒の笑顔の回復と保護者や教員の安心への見通し支援でしょうか。

谷川：社会への適応がしづらかったり、社会での生活がしづらかったりといった問題が最近顕著になってきていますね。緊急時の対応もあるとのことですが、そうしたなか笑顔と安心感を創る。本学会が本邦初で提唱した人間関係力の概念にも結びつきます。自己と人と物を基盤に働きかける力と理解されていますが、いろんな立場からもこれまで発信がありました。先生ご自身は人間関係力について、どうお考えですか。

田中：私の臨床経験から、たった一人の声掛けで心が救われたケースを多く見えています。人は一人では生きていけないのだなあと。どうしたの？暑いね、寒いね、痛い？苦しい？と、人に関心を寄せる力、これを持ち合えれば関係は自然と構築されて「繋がって」いくのではないかと考えます。

谷川：なるほど。つなげていく、和となることがポイントですね。これからの人間関係に最も大切なことかもしれません。では、最後にもう1つ。人間関係、こうすれば良くなりますよという何か提言なり提案はございませんか。

田中：最近はキレない力、伝わる話し方、など関係を形成し良好に保つ本が溢れています。具体的なスキルも大切ですが、芯は、相手をどう思っているか、良く思えば良く返る「好意の返報性」を意識してはいかがでしょうか。

谷川：挨拶されれば、きちんと返す。そんな些細なことも大切にしたいものです。本日はありがとうございました。

(インタビュー：2019年8月31日)

「家族の関係や恋愛に友情、人生のすべてを映画から学べる」と私の友人は言う。映画好きな私としても確かにそう実感している。

そこで、人間関係学的な関連も含め、そのような視点をもって、私が今まで鑑賞した映画を往年の作品から新作まで、紹介していきたいと思う。

第1回目は、今年封切られた『運び屋』。

言わずと知れたクリントン・イーストウッド監督、出演作品。

家庭を顧みず、自分本位に生きたイーストウッド扮する90歳のアール・ストーン。事業に失敗し、自宅も差し押さえられる。路頭に迷っている時に、車で物を運ぶだけの仕事にありつく。田舎道を運転さえすればいいのである。ドラッグの運び屋とも知らずに、犯罪に手を染めていく主人公。

車内では、往年の音楽が流れ、展開としては軽いタッチで描かれている。

麻薬カルテルからの信頼を得て、ある意味凄腕の運び屋となり、多額の報酬を得ることになる、アール・ストーン。

ドラッグを運ぶと知った時には、もう後に戻れず、ついには、ブラッドリー・クーパー扮する麻薬捜査官に追われ、捕らわれの身になるのである。

遅すぎた感はあるが、アール・ストーンは人生を見直し、その後、家族との関係を修復するストーリーが展開される。この作品は、第2次大戦の退役軍人のレオ・シャープ氏の実話がベースとなっている。

時間は瞬く間に過ぎる。どう生きるのか。老いと死は誰にでもやってくる。そこには、お金と成功、名誉よりも何を大切にすることが問われている。そんな当たり前のことを改めて考えさせてくれた作品なのである。

イーストウッドは現在88歳。今まで演じてきた役柄や監督作品は、どちらかと言えば、当時の社会状況に併せ、正義が根底にあったように思える。常にヒーローであった彼が、『運び屋』では、老いに戸惑いつつ、躊躇いながらも犯罪行為に手を染め、それを正当化していく老人の心の機微を見事に演じている。

孤独な老人とその家族、高齢者の貧困さ。取り巻く状況は日本とあまり変わらないのではないだろうか。社会的なテーマを人間関係学的にはどうとらえるのか。課題を突き付けられたと感じている。



会員の活動紹介

一人一人が承認される社会を目指して



2019年9月7日、熊本県の九州ルーテル学院大学で開催された日本福祉図書文献学会第22回全国大会（大会長：永野典詞常任理事）では、杉山雅宏事務局長が90分間の記念講演を行いました。同学会の学会賞（学術賞）に決定したのがちょうど1年ほど前、そしてこの度の記念講演招聘となり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

記念講演「自分心をいざなう文献と現場」では実にスライドが70枚に及ぶ大ボリューム、また会場内において歩数を計っていたところ、“890歩”に達していることも確認できたことが判明し、（890歩というのは少し冗談交じりではあるものの）、いずれにせよ、“与えられたことを一生懸命やるのが人生である”といったメッセージには示唆を受けました。

人が人らしく生きられるために、いかに面倒なことをやれるかが（いかに多く歩けるかが）、人間関係の“癒し”を生み出す原動力（motivating power）にもつながっていると確認できました。



尊厳と権利を尊重する看護福祉～自分らしく生きることのできる社会の創出～



2019年7月20日・21日の両日、福岡大学で開催された第32回日本看護福祉学会学術大会（大会長：中嶋恵美子教授）において、山本克司理事長が1時間の基調講演講師と2時間にわたるシンポジウムのコメンテーターを務めました。

基調講演「個人の尊厳と権利を尊重する看護福祉」では、看護福祉の目的はその職務対象である個人の尊厳を守ること、それには個人の明確化と同時に、その具体である人権の理論的な理解と表現できることが大切であると説かれました。

私たちが求めているものは幸せであり、幸せとは自分の思いが実現すること、すなわち、どういった環境にあらうとも自己実現が最大限できるような社会づくりが求められると言及しました。一方で、表現の自由は無制限ではなく、患者/利用者と看護職/福祉職とのあいだに、場合によっては互いの人権と抵触するときもあり、その時どのように人権調整してゆくのかが重要課題となること、そして人権調整概念としての明文化された「公共の福祉」を踏まえ必要最小限の基準の構築がなくてはならないと語りました。



続くシンポジウム「自分らしく生きることのできる社会の創出」においては、コメンテーターとして知られざるご自身の介護経験のエピソードを披露されるとともに、これからを生き生きと暮らすためのヒントをフロアと共有しました。

なお、来年7月11・12日、関西福祉大学で第33回日本看護福祉学会の開催が決定しています。大会のメインテーマは「人間関係の和で紡ぐ看護福祉」で、大会長は谷川和昭常任理事です。

《事務局だより》

会員動向 <2019年9月17日現在>

会員人数：229名（正会員175名・一般会員24名・準会員28名・賛助会員2名）

新規会員：正会員 山崎将文・秋元響・田中謙・福本良之・鈴木好子

準会員 木川智美・UDA GEDARA SANDANI PRATHIBHA SAMARASINGHE

（ウダ ゲダラ サンダニ プラティバー サマラシンハ）

退会者：5名（正会員）

10月より新たな会計年度となります。10月中には2019年度会費を請求させていただきます。会費納入につきまして、ご理解・ご協力をいただければ幸いです。よろしくお願い致します。

《HP管理委員会からのお知らせ》

HPをリニューアルしました。メルマガでは各地域で活躍されている方々の情報をご紹介していく予定です。学会主催以外の研究会、研修会、学習会情報がありましたら、公式フェイスブックから投稿していただくか、イベントサイト（こくちーずなど）に登録後ご連絡ください。

（HP管理委員会）

《広報委員会からのお願い》

原稿大募集！ 「北から南から」コーナー

このコーナーでは、全国の会員の声を学会ニュースでお届けしたいと思えます。

日々の生活で感じておられること、思い浮かべたこと、何でも大丈夫です。

俳句や短歌、詩、などの発表もOKです。受け付けています。

旅の思い出、紀行。人生とっておきの話。皆さんに伝えたいこと。

皆さんのお気持ちの声を紹介させてください。

字数は300-600字程度。300字より少なくなる場合や600字より多くなる場合は要相談。

お気軽にご投稿ください。

送付先は、広報委員会（谷川）まで。アドレスは、tanikawa@kusw.ac.jp です。

原稿締切は、このニュースをお受け取りになられました日より、

2020年1月6日（月）23:59までです。

掲載は2月もしくは3月発行の第98号を予定しております。

（編集後記）

今号は2018年12月15日、新理事長に就任された山本克司理事長の巻頭メッセージを掲載するとともに、「北から南から」を少し充実することができました。「映画鑑賞記」の新連載も始まりましたが、いかがでしたでしょうか。学会ニュースは来年の2月か3月に「第98号」、5月か6月に「第99号」、9月か10月に「第100号」を迎える予定です。「北から南から」をもっと充実していけたらと思案しており、今後ともご指導願います。（谷川和昭）